|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ト書き | 本文 | 備考 |
| カラスのかーすけが空からチラシを撒いています。  チラシを拾うたぬきのたんた。うれしそう  チラシを拾うきつねのこんた。ちょっと複雑・・・。  手にとって読み始める。  チラシにはこんな文面が・・・ | おしらせだよ　おしらせだよ！  はるになりました。  やまかじの　きせつが　やってきました。  ことしは　みんなのちからで　もりを　かじから　まもりましょう！  いっしょに　しょうぼうだん　はじめませんか？  ◯月✗日　あさ７時　こいけに　あつまれ！  　　　　　　　　　　　　　　　　　　くまの　まーくんより |  |
| ２．  こんもりとした山（おにぎり山）の裾野に広がるクヌギの森。その森の真ん中にある小さな池（小池）のまわりに、動物たちが集まってきました。  くま、いのしし、しか、あなぐま、さる、うさぎ、りす。それからたくさんの小鳥と野ねずみたち。  もちろん、かーすけやたんたの顔も。  くまのまーくんが切り株に立って話しをしています。  消防団を発足するという話しに、森の仲間たちは興奮ぎみです。 | 「みなさん　きょねんの　かじのときには　まちのしょうぼうだんが　たすけてくれました。ことしは　ぼくたちも  このもりに　しょうぼうだんを　つくろうとおもいます。  いっしょに　やりたいひとは・・・このゆび　とまれ！」  「わ～い　わ～い！」  「やろうよ　やろう！」  おおぜいのどうぶつたちが　いっせいに　まーくんのまわりに　あつまりました。  なかでも　いちばん　ちいさな　のねずみの　ちゅうたは　いちばんおおきなこえで　こういいました。  「まちの　なかまになんか　まけないぞ！」 |  |
| ３．  そこへ、こんたが通りかかります。  たんたはうれしそうに声をかけますが・・・。 | そこへ　こんたが　やってきました。  「やあ　こんた　きみも　きてくれたんだ！　うれしいな。いっしょに　がんばろうね」  「ごめんよ　たんた。ぼくは　まちのしょうぼうだんに　はいろうと　おもってる。だって　あそこには　りっぱな　しょうぼうじどうしゃが　あるから・・・。それに・・・ことりや　のねずみばかり　あつまったって　かじなんて　けせやしないもの！」  そういうと　こんたは　さっさと　いってしまいました。 |  |
| ４．  こんたの背中を、呆然と見送る森のなかまたち。  　　　遠く近くに山桜が咲いています。  　　　ちゅうたと小鳥たちが悔しそうにつぶやきました。 | 「ひどいわ　こんたったら・・・。」  「ぼくたち　なんのやくにも　たたないのかなあ・・・？」 |  |
| ５．  おにぎり山で山火事が発生しました。  　　　カラスのかーすけが大声で触れ回っています。  現場に向かって駆けつける、消防団のめんめん。  トビやスコップを持ち、真新しいヘルメット・制服に身を包んでいます。が、残念なことに、大きすぎたり、小さすぎたりして・・・。 | やまかじ　はっせい！  やまかじ　はっせい！  そんなことがあってから　なんにちかたった　あるひの　ごごのこと。おにぎりやまで　かじが　はっせいしました。  もりのしょうぼうだん　はじめての　しゅつどうです！  いそいで　あつまれ！  いそいで　あつまれ！ |  |
| ６．  現場に着くと、火は枯れ葉や下草を焼き、ナラやクヌギの立木に燃え移ろうとしています。  　　　スコップで火をたたき、なんとか消し止めようとする森の消防団。    　　一方、山からのぼる煙に気づいた町の消防団が、可搬式の消防ポンプを積載車に積み込み、緊急出動していきます。  　　いぬ＆ねこ団員に混じって、こんたの顔も見えています。  　　こちらの制服は、ばっちりきまっていますね。 | 「あち！　あちちちち。」  「きをつけて！」  「さあ　どんどん　たたいて！」  「たたいて　けすんだ！」  このとき　まちのしょうぼうだんも　おにぎりやまから　たちのぼる　しろい　けむりを　かくにんしました。  「まちのしょうぼうだん　しゅつどうします！」  ウーウー  カンカン　カンカン　カンカン |  |
| ７．  森の消防団の奮闘もむなしく、火は灌木を焼き、立木に燃え広がっていきます。  　　　と、そのときです。  　　　消防団の背後から、わが子を呼ぶ、あなぐま母さんの叫び声が聞こえてきました。 | 「ぼうや！　ぼうや！  どこにいるの？　へんじをしてちょうだい！  ぼうや！  ああ　なんてことかしら。  このおくに　わたしたちのおうちがあるの。  ぼうやが　まだ　そこにいるのよ！  だれか　たすけてちょうだい！」  あなぐまかあさんが　もえあがる　おにぎりやまを　みあげて　さけんでいます。 |  |
| ８．  あなぐまの母さんの求めに応じて、たんたが燃える林の中に突入しようとしますが・・・  　　一方、小池に到着した町の消防団は、吸水管を水面に突っ込み、ポンプ３台とホース９本を連結していきます。  　　　森の消防団をじゃまもの扱いする町の消防団。 | 「よし　それじゃあ　ぼくがいくよ！」  たんたが　いきよいよく　とびだそうとすると　まーくんが  「ちょっと　まって」　と　よびとめました。  ここから　やまにはいれば　あっというまに　けむりにまかれてしまう　というのです。    いっぽう　こいけまで　やってきた　まちのしょうぼうだんは　ポンプとホースを　すばやく　つないでいきます。  「もくひょうは　おにぎりやまの　もり！　みずは  こいけから　とれ！　そうさ～　はじめ！」  「よし！」  「じゃま　じゃま　どいて　どいて！」 |  |
| ９．  うなりを上げる３台の消防ポンプ。しかし、小池から現場まではかなり勾配もあり、筒先から出る水は、まさにチョロチョロ！  ずっこける森の消防団。  あわてふためく町の消防団。  　　　こんたは、背負式の水のう（ジェットシューター）を担いで、燃えさかる林の中へと突入します。 | 「おかしいな　みずがでない　わん！」  「ホースのかずを　へらせば　うまく　とぶはずだけど　そ  うすると　もりに　とどかなくなっちゃう　にゃあ！」  あなぐまぼうやを　さがそうと　ジェットシュタ－をかついだ　こんたが　もりのなかへと　ふみこみます。  たんたも　いそいであとを　おいます。  そこへ　ちゅうたが　やってきて　みちあんないを　はじめました。  「こっち　こっち　こっちだよ。こっちなら　だいじょうぶ。さあ　ぼくに　ついてきて！」 |  |
| １０．  あなぐまの家を探し当て、ぼうやを無事に保護。  　　　ぼうやを抱きかかえた、たんたに、こんたがシュータの水を吹きかけながら、森の出口を探します。 | たんたとこんたは　ちゅうたの　たすけをかりて　ぶじに　ぼうやを　たすけだしました。  さあ　あとは　いちびょうでもはやく　ここから　にげださなければ　なりません。  すると　とつぜん　おおきな　きが　たおれてきました。  「あ　あぶない　こんた！」  「こっちだ　こっち　こっちへいこう！」  ちゅうたが　けんめいに　みちを　さがします。 |  |
| １１．  たんたたちを見守る、森の消防団とあなぐま母さん。  町の消防団も防火帯をつくりながら、最善を尽くしています。  その切れ目から、小池に果敢にダイブし、次々と飛び立つ小鳥の群れが見えました。 | 「ああ　ぼうや　どうか　ぶじでいて！」  「たんた～！」  「こんた～！」  「ちゅうた～！」  「わあ　あんなにたくさんの　ことりが　とんでいく　わん。」  「いったい　なにが　はじまるのか　にゃあ？」 |  |
| １２．  たんたとこんたの頭上から、突然雨粒が落ちてきました。その雨は次第に激しさを増していきます。  ちゅうたが空を見上げて、小鳥たちに気がつきます。 | 「あれ　なんだろう？　たんた　なにか　おちてきたよ。」  「どうしたの　こんた？　え？　あめ？」  「あめだよ　あめだ　やったよ　たんた！」  ちゅうたは　くいいるように　そらをみあげています。  「よ～くみて！あれは　ことりさんだ。ことりさんが　ふらせているんだよ　このあめを！」 |  |
| １３．  小池にダイブして舞い上がる何百、何千という小鳥たち。その小鳥たちの羽から落ちた雫が、雨のように静かに降り注ぎます。  　　　いつの間にか山火事は鎮火しています。  　　　しばらくは、誰もそのことに気がつきません。 | ことりたちの　はねからおちた　なんびゃく　なんぜんという　しずくは　まるで　ほんものの　あめのように　しずかに　しずかにふりつづきました・・・。  どれくらいの　じかんが　たったのでしょうか。いつしか　やまかじは　きえていました。 |  |
| １４．  　　　　煤けた顔でおにぎり山を下ってくるたんたたち。  　　　　それを拍手で迎える森の消防団と町の消防団のめんめん。  　　　　ぼうやはあなぐま母さんのもとへと、まっしぐら。  　　　　こんたは、みんなにむかって、深々とおじぎをします。 | 「ごめんね　ちゅうた。ごめんね　ことりさん。それから　みんなにも　あやまらなくちゃ。あのときは　ひどいことを　いっちゃった・・・。  ほんとうに　ごめんなさい。そして　たすけてくれて　ありがとう。」  「いいえ　こんた　おれいを　いわなければ　いけないのは　わたしのほうよ。あなたは　とっても　ゆうかんだったわ」  そういうと　あなぐまかあさんは　やさしく　こんたを　だきしめました。 |  |
| １５．  いっしょに山火事パトロールをする森の消防団と町の消防団。  指揮をとっているのは、くまのまーくん。  こんたは、いまや森の消防団の一員となっています。  消防自動車の後ろには、団員たちの列、列、列・・・。 | もりのしょうぼうだんと　まちのしょうぼうだん。  みんなの　ちからをあわせれば　もっともっと　つよくなれるんだってことに　きがつきました。  ふたつの　しょうぼうだんは　これからも　なかよく　きょうりょくしていこうと　おもいました。  やまかじようじん　ひのようじん。  やまかじようじん　ひのようじん。  おにぎりやまの　やまざくらは　いまが　まんかいです。 |  |